
会長あいさつ

安川 第五郎



はからずもこの度、前会長岸氏が急逝されましたあと、私がたまたま当会の創立以来会員の一人として入れていただいていたような関係で、後がまにご指名を受けまして取りあえずお引き受けしたわけであります。

私もオペレーションズ・リサーチについては、最初から異常な興味を持っており、入会の勧誘を受けて直ちに入会したような次第であります。

その後も、講演会などに出席したことはありませんが、出版された報告、論文その他はレギュラーに頂戴しておりますので、その都度拝読しております。しかし、私にとっては遺憾ながらきわめて難解でありまして、一ページの半ばぐらいから先に進むことができないというようなことで、実はサジを投げた格好で、また老齢でもあって根気も続かないし、しいてわからせようという努力も実は申しわけない次第ですが払っていませんでした。

そのような状態でしたので、岸前会長のあとを受け継いで会長になれるという勧誘を受けましたのではなはだ当惑したわけであります。

故人の悪口を申しては相すみませんが、岸君に会長をつとめることができたのなら、私もそう負けはとらんだろうというような、きわめて簡単な考えで取りあえずお引き受けした次第であります。

しかし、今までのように甘い考えで、一ページも了解できないような者が、この貴重な重責をになうということはなんとしても、自分も技術者の片割れであるだけに相すまんという気がいたしまして、正直なところ申し上げると、急に思い出したようにオペレーションズ・リサーチの本を買って予備知識の抽入の最中であります。時間的にもそういうむずかしい本を読むのには恵まれておりませんので、まだここでご披露するほどには進んでおりません。

ずっと以前に、私の懇意な友人と、談たまたまこの問題になったときに、

その友人いわく、君は予備知識なしであんな雑誌を読むからてんで手がつかない。あれにはちゃんと教科書があるんだ、それを前もって読まなくては、あんな論文ははじめから了解しようというのは無理だ、おれがいつか丸善で教科書を買ってきてやる。ということになったのですが、いまだにその友人は本を買ってきてくれないというわけであります。

そこで、今度は必要に迫られて自分から進んで、その教科書が適当かどうかわかりませんが、にわか勉強をいたしているような次第であります。

それと、もう一つこの際に想起するのは、ご承知かと思いますが、私はもっぱら原子力に取り付いているわけです。私は元來電気のエンジニアであり、原子力とはきわめて深い縁がありますが、しかし電気工学が必ずしも原子と共通しているわけではない。しかし、終戦後各国が核分裂エネルギーを平和利用、ことに発電に利用するというようなことは、これはエンジニアでなくても、エネルギー問題から当然考えることであり、私も同様に、これは人ごとのように思うわけにもいかないというので、ほかに取り付け教科書も見当たりませんので、日本に国際連合協会という外務省の古手の連中がやっている会ですが、その評議員の片割れに私もなっているので、よく出版物を送ってくれるわけです。それによく原子爆弾の観点から原子エネルギーの半分理論みたいなものを書いたのが見当たりましたので、それでひとつ原子エネルギーは何物であるかぐらいのことを突き止めようと思って一応試みたわけですが、正直申しまして、第一にウランに 235 と 238 というふうにいろいろあることが腑におちない。同位元素という言葉すら、私どもが 50 年前に物理を教わったときには何もそんなものはなかったわけです。

これまたオペレーションズ・リサーチと同じようなわけで、とてもわれわれのような古い者には手が出ない。こんなものに年寄りが手を染めるのがそもそも思い過ぎだというようなことでおったのですが、私もちょうどそのころは別にこれというきまった職務もなく、終戦後の例のパージの問題に触れていたせいもありましたが、閑職的な生活を送っていたときでして、東芝の当時の専務である瀬藤氏がわざわざ私のところに訪ねて来た。で、その話は世界中あげて原子力利用ということで、もうすでにイギリスなどでは実際化されんとしているのに、日本のように貧弱な資源を持っている国が全然これに手を染め得ないということは、将来において非常に大きな悔いを残すことになる。しからばといって、今原子力発電を日本で実施するというのも現下の段階では不可能である。

そこで若い人、ことに電気工学を専門にしている若いエンジニアが、言わず語らずのうちに、このまま傍観することは、将来われわれの恥辱である。せめてイギリス、アメリカ、あるいはフランスあたりで原子力発電を実施しているその結果、あるいはそれに対する学者、エンジニアの論文などが国会図書館にきている。ところが聞いてみると、折角きた出版物をだれも読んでくれないという話だが、こういうものでもせめてわれわれエンジニアはよく精読して、そして重要なものは翻刻なり翻訳をして同好の士に読ませ、お互いに勉強し、外国でやった実績を中心にして原子力の検討をすることは当然われわれの義務ではないかという議が起こったわけでありす。

それをやるために、原子力発電資料調査会というものを組織することになりましたが、いかに手弁当で勉強するとしても、印刷したりかれこれで年に 2300 万の金が要る。これはどうしても理解ある法人関係から寄付を募るほかはないのだが、寄付を募ることになると、ただ名前だけでは信用がおけない。だれか財界に信用のおける人が中心にすわってくれないと寄付の集めようがない。その中心に私に目星をつけてきたわけでありす。そこで私は今日弁明したのと同様な意味で、原子力そのものには非常に興味を持っているが、実は正直なところ一応勉強してみたが、私の予備知識とこの年齢では歯が立たない、だからサジを投げてるんだということでお断りしようと思ったところが、そんなことはどうでもよろしい。わかるわからないは別問題だ、お前が中心になってくれればそれでいいんだということで、約二時間ほど押し問答した結果、とうとう私が落城してその会の会長にすわることになり、昭和 29 年に発会式が行なわれたわけでありす。

そういうわけで、講演会あるいはディスカッションの場に会長が欠席するということも具合がわるい。わからぬままに出席して話を聞こうというので努めて会合に出ているうちに、はなはだ口幅ったいことを申し上げるようですが、やや原子力そのものが理解できたような気になったと同時に、一層その探究に興味を感じてまいりまして、自分では大分原子力の知識を備えたような、あるいは錯覚に陥ったのかもしれませんが……。要するにそれが基をなして、結局初代の原子力研究所の理事長にあげられ、それがまた縁でだいまの原子力発電会社の社長に引っ張られた。

わかったと申しましても、みなさんのご想像に任せる程度で、実際にはわかっておりません。専門家から質問でもされれば、二口目には詰まるこ

とはわかっておりますが、とにかく原子力発電所を現在の程度にまで進めるのに、社長として十分であるかどうかは私には批判の限りではありませんが、大過なく今日まで進んできたというのは、今申したように資料調査会の会長になり、それがきっかけになって会員の専門家からいろいろと理論、実際的な話を聞いている間におのずから——これは元来エンジニアとして生い立った一つの利点と申してもいいと思いますが……。

そういうわけで当会のことも、今はほとんどお話を聞いても、実際問題と結びつける点まではわかりますが、むずかしい数式になると全然寄りつけない気がするわけであります。先ほど申したように、教科書と大いに奮闘いたしまして、機会あるごとにこういう講演会にも顔を出して、みなさんのお話を直接伺っているうちに、幸いにしてやや理解できるところまでいけばもっけの幸いと思っているわけであります。

私も 76 歳という老齢でもあり、頭は古いし、第一あんなむずかしい式を若いときのように、とことんまでわからせよということは、遺憾ながらも気力がなくなっておりますので、どうかみなさん方のご激励によって、この老骨をひっさげて曲がりなりに重要な会長の職務を全ういたしたいと念願している次第であります。

幸いにして副会長はじめそれぞれ役員の方も専門の方が揃っておりますので、私ごときしろうとに近い者が会長にすわっていても、なんとかこの会を発展させることのお役に立ちはないかという一縷の望みを持って快くこの重責を引き受けたような次第であります。どうか今後ともみなさまの格別なご支援とご鞭撻をお願い申し上げまして私の新任のごあいさつに代える次第であります。